

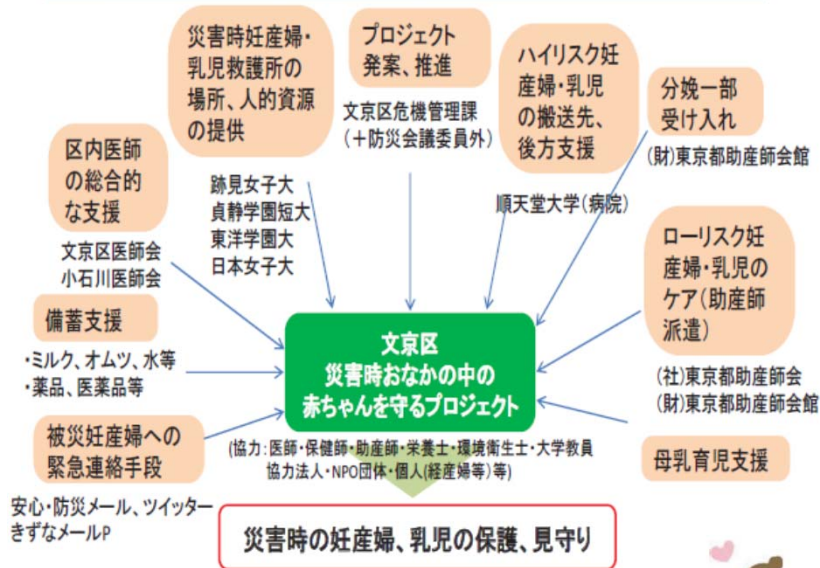
男女共同参画の視点からの防災

事例集

【取組の概要】

- ・ 文京区では、平成24年に全国に先駆けて災害時に妊産婦や乳児が避難する専用の妊産婦・乳児救護所（母子救護所）の設置を地域防災計画に記載。
- ・ 母子救護所を確保するための支援協定を区内各所と締結。
- ・ 毎年、協定先の大学において関連機関と協力しながら、母子救護所の開設訓練を実施し、災害時に妊産婦・乳児を保護する体制を構築。

災害時おなかの中の赤ちゃんを守るプロジェクト -イメージ図-



- 災害時おなかの中の赤ちゃんを守るネットワークを構築する！
- 明日災害が来ても安心して未来の子どもたちを産める文京区！
- 災害弱者保護のため、全国に文京区パッケージを提言し広めていく。

- ・ 区内の女子大を中心とした大学と連携し、「妊産婦・乳児救護所」を構内に設置。
- ・ 救護所には助産師会・助産師会館から助産師が派遣され、妊産婦等の心身のケアを実施。
- ・ ハイリスク妊産婦・乳児の搬送先後方支援として大学病院等とも連携。
- ・ 必要な備蓄品リストを作成。
(アレルギーを持つ乳児用の粉ミルク等も備蓄)

平成28年3月現在

【取組の経緯】**東日本大震災**

東日本大震災の際、避難所に派遣された区職員が、妊産婦と乳児へのケアが不十分だったことを目の当たりにした。

任意のプロジェクトチーム

任意のプロジェクトチーム（医師、看護師、助産師、地域のパパ・ママ、子育て支援NPO等）を立ち上げ、プランを練った（東日本大震災後、何かせねばという機運が高まった）

従前からの連携

もともと区と大学には連携があり、大学側からも、大規模災害時に帰宅困難者の受け入れについてどう対応すべきか相談があった。

大学や病院との協議

具体的な連携方法や条件（女子大は帰宅困難者の受け入れは女性に限定したい等）について**何度も丁寧に協議**を重ねた。

協定の締結

- 設置場所：区内の4大学（**女子大は女子トイレの数が多い**ほか、**福祉・介護系をもつ大学は施設や学生の協力も仰げる。**）
- 大学が**備蓄品の場所も提供**（管理は防災課）
①粉ミルク（**アレルギー用粉ミルク含む**）、②哺乳瓶や粉ミルク用の水、③紙おむつ、④お産セット 等

母子救護所開設訓練の様子



受付では、部屋割表を使用し、避難者に部屋を案内



学生が妊婦・受付・誘導の役割を分担

毎年継続的に開設訓練を実施している。
備蓄品の設置は大学、管理は防災課が担当し、妊産婦、乳幼児のニーズにしっかり対応。

災害時用備蓄配備内容一覧

非常食	種類	
		粉ミルク(普通)
		粉ミルク(アレルギー)
		粉ミルク用水
		妊産婦用食糧 妊産婦用水

レスキューフーズ1日セット(保存年限3年)

3食分の食事がセットになっている。
レトルト形式で、機材を使わずに加熱でき、食べることができる。

備蓄資器材	種類	
		トイレセット
		子ども用オムツ(S)
		子ども用オムツ(L)
		ウエットティッシュ
		ほ乳瓶
		モンダミン
		毛布
		エアーマット
		給水袋(30)
		分娩セット1
		分娩セット2
		超音波ドプラ
		体重計
		聴診器

分娩セット1

緊急分娩に備え、処置に使う消耗品を1セットごとに箱にまとめて配備。
*分娩シート 胎盤受けシート ディスポ皿 大 ガーゼ カット綿 臍帯クリップ はさみ ゴム手袋 7号 ディスポガウン ディスポ脚袋

分娩セット2

緊急分娩後、産婦や新生児が使う消耗品を1セットごとに箱にまとめて配備。
*大人用紙おむつ Lオサンパット Lオサンパット M生理用ナプキン(夜用) 生理用ナプキン(普通用) アルコール綿 新生児用肌着 綿棒 バスタオル フェイスタオル 晒布

	処置器具セット1
	処置器具セット2
	薬剤セット

処置器具セット1

緊急分娩時に使用する医療器具を1セットごとに箱にまとめて配備。
*羊水吸引カテーテル 導尿用カテーテル ヘルプクレンメ アルコール消毒剤 滅菌ゴム手袋 滅菌ガーゼ はさみ ボアテープ アルコール綿

処置器具セット2

緊急分娩時に使用する医療器具を1セットごとに箱にまとめて配備。
*輸液セット 三方活栓付延長チューブ サーフロー20G 針固定用テープ 針付注射器 聴鏡 セッシ

薬剤セット

緊急分娩時、またはその処置後に必要な薬剤等を箱に入れて配備。
*アトニン・メテナリン 輸液用薬剤 K2シロップ 点眼用抗生剤 鉄分補給用ゼリー 消毒液

【取組のポイント】

具体的な制度設計

- ・ **地域防災計画**に妊産婦、乳児を保護するための施設としての「妊産婦・乳児救護所」を**明記**し、区として災害弱者である妊産婦・乳児を保護することを明確に打ち出し。
- ・ 災害時に**避難してくる妊産婦をあらかじめ具体的に算定**し、結果に基づいて必要なスペースや出産支援、医療ニーズ等に関する連携先等を検討。

区内機関との有機的な連携

- ・ 区がリーダーシップを発揮し、**防災課が中心となって区内の多様な関係機関と有機的に連携**することにより、災害時において妊産婦等を守るための体制が整備。
- ・ 大学、助産師、警察等と連携しながら、**毎年、開設訓練を実施**。
- ・ **年1回関係者が一堂に会して合同会議を行い、課題を洗い出し**。

内閣府避難所の確保と質の向上に関する検討会第3回質の向上ワーキンググループ
資料5、参考資料1

http://www.bousai.go.jp/kaigirep/kentokai/hinanz yokakuho/wg_situ/dai3kai.html
当時の課長へのインタビュー記事 <http://kosodateswitch.jp/catchup/201511/>

文京区
危機管理室防災課
03-5803-1179